

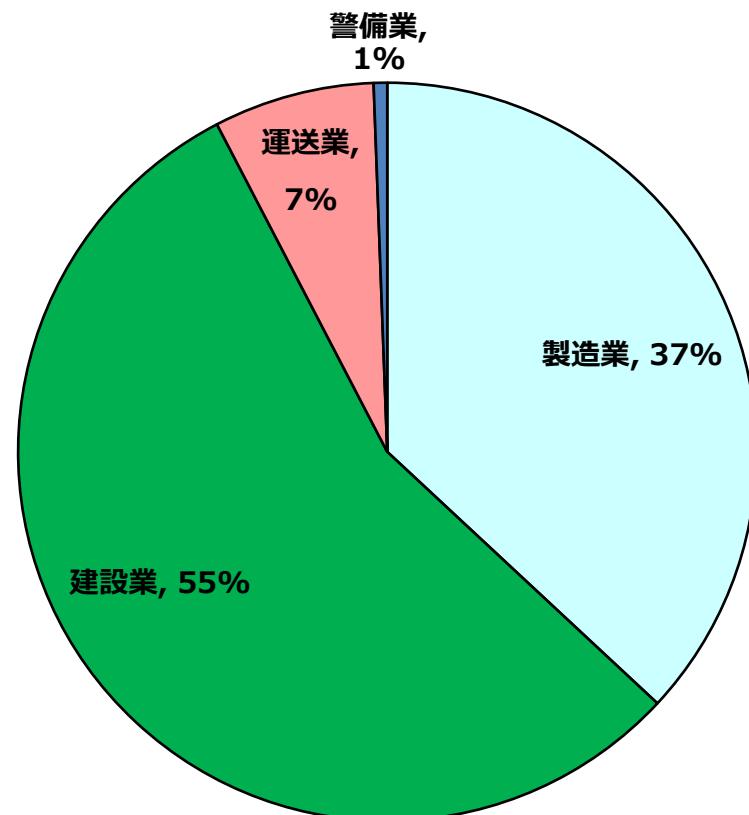
事業場における熱中症防止対策の取組状況について

第1回 職場における熱中症防止対策に係る検討会資料

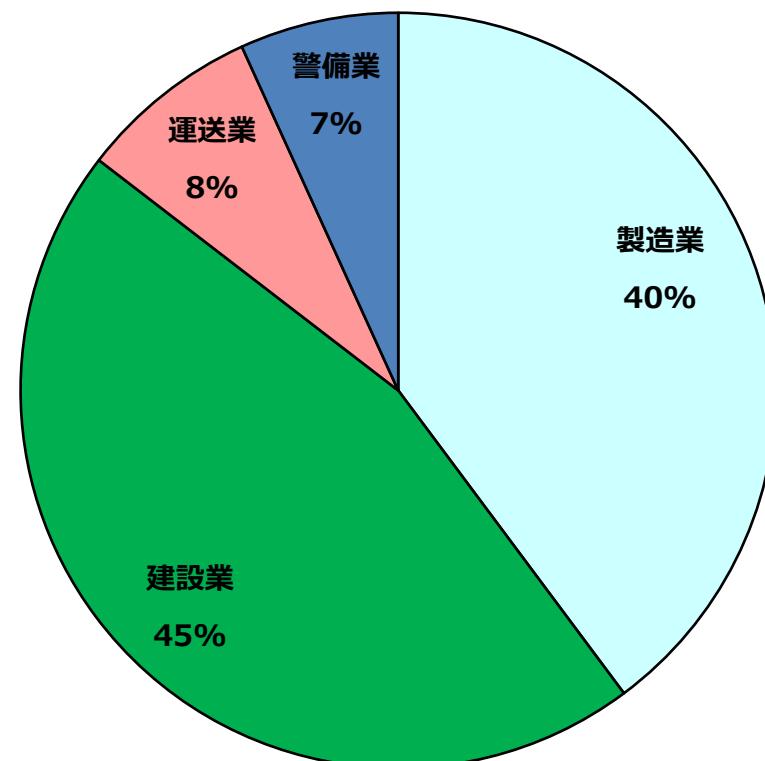
当該調査の主旨

令和7年6月1日から9月30日の間に、熱中症に限らず労働基準監督署が指導を行った、建設業、製造業、運送業又は警備業の事業場を対象として、熱中症のおそれのある作業がどの程度あるか、改正省令の遵守状況等各熱中症対策の実施状況について調査したもの（17,072事業場）。うち、熱中症を端緒とした指導に当たってはより詳細な項目を調査している（103事業場）。

業種別監督件数(n=17,072)



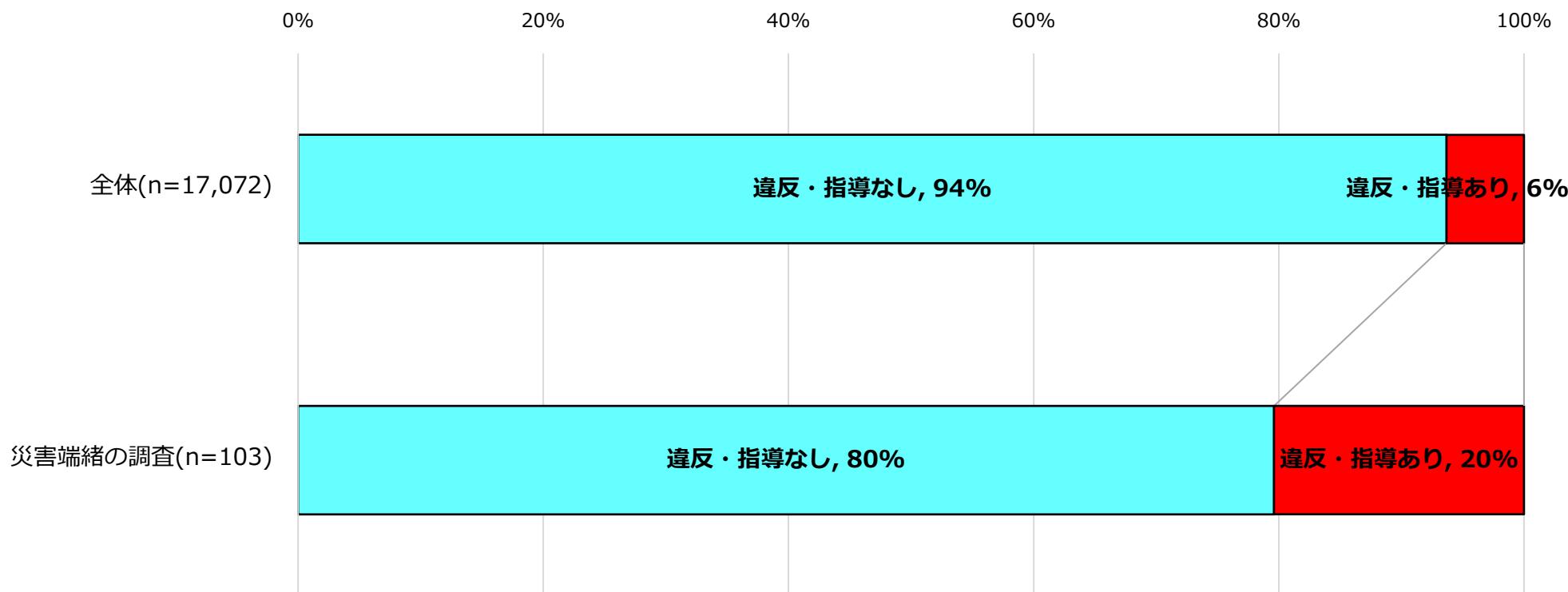
業種別監督件数（災害端緒の調査）(n=103)



労働基準監督署の調査（労働安全衛生規則第612条の2 遵守状況）

※労働安全衛生規則第612条の2は、熱中症の重篤化防止のため、①報告体制整備、②報告体制周知、③措置手順作成、④措置手順周知の措置を義務づけているもの。当該条文の遵守については①～④全ての措置を実施する必要がある。

労働安全衛生規則第612条の2 遵守状況



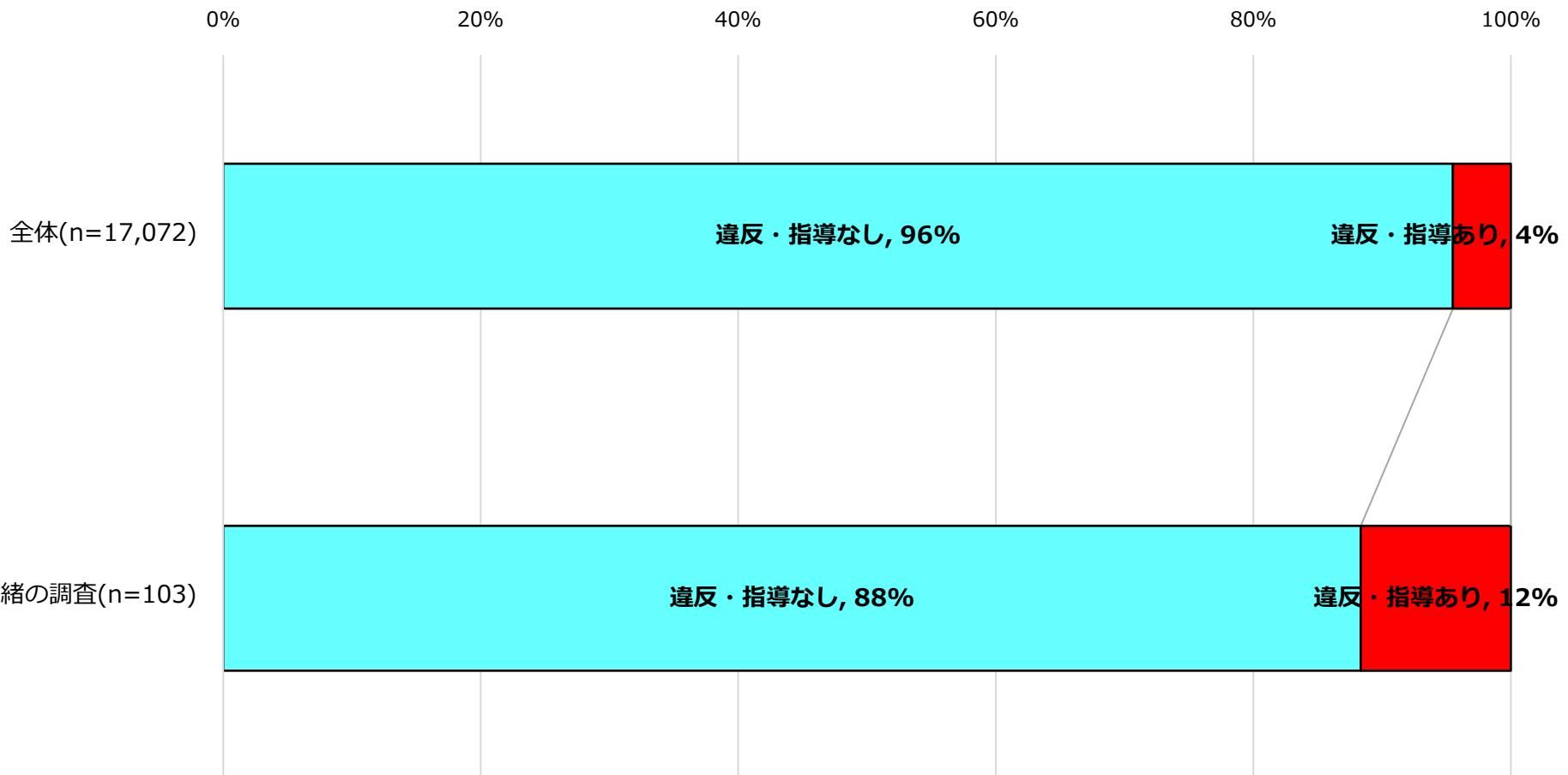
※「違反・指導なし」は①～④のいずれの措置においても違反及び指導がなかった件数を集計

労働基準監督署の調査（労働安全衛生規則第612条の2の報告体制整備）

※労働安全衛生規則第612条の2は、熱中症の重篤化防止のため、①報告体制整備、②報告体制周知、③措置手順作成、④措置手順周知の措置を義務づけているものであり、うち①の遵守状況

労働安全衛生規則第612条の2

報告体制整備遵守状況

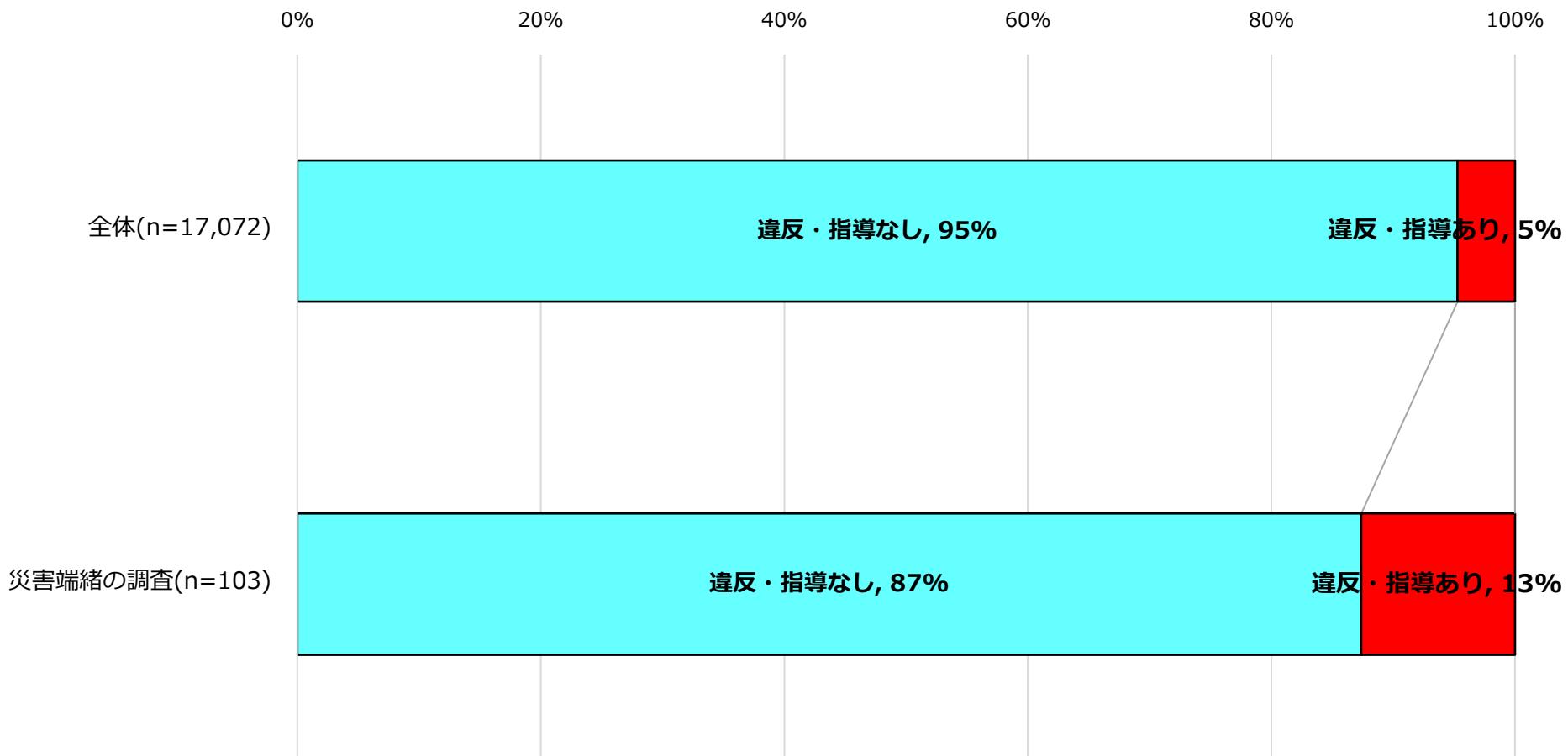


労働基準監督署の調査（労働安全衛生規則第612条の2の報告体制周知）

※労働安全衛生規則第612条の2は、熱中症の重篤化防止のため、①報告体制整備、②報告体制周知、③措置手順作成、④措置手順周知の措置を義務づけているものであり、うち②の遵守状況

労働安全衛生規則第612条の2

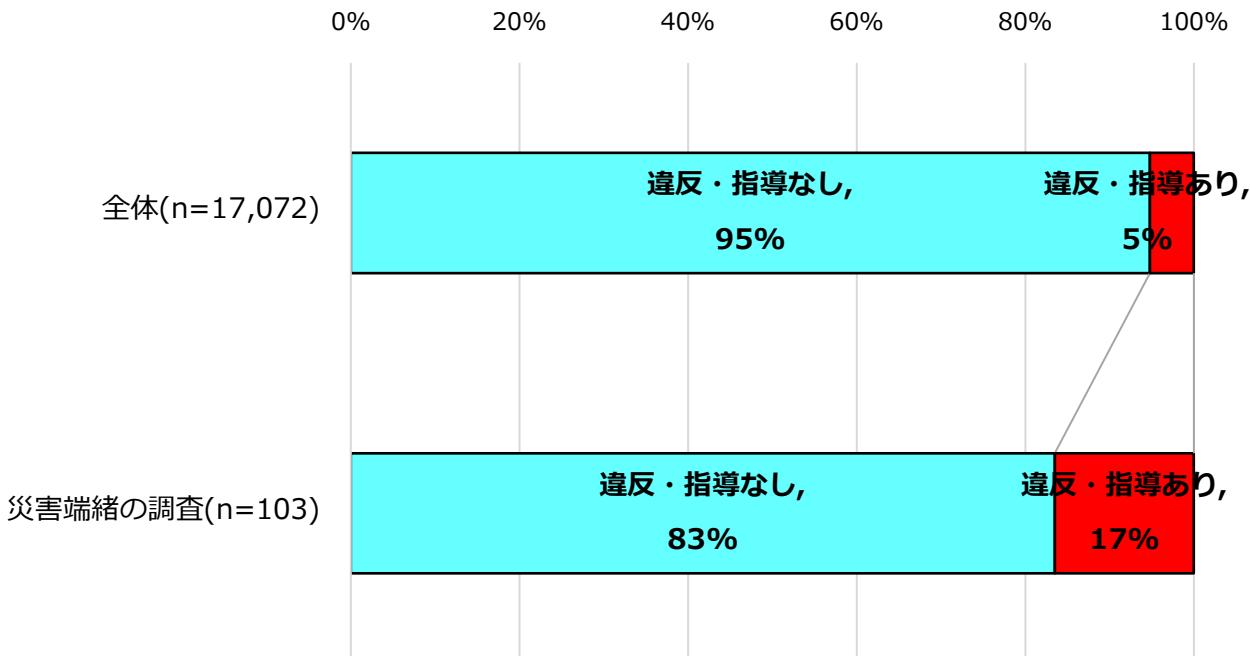
報告体制周知遵守状況



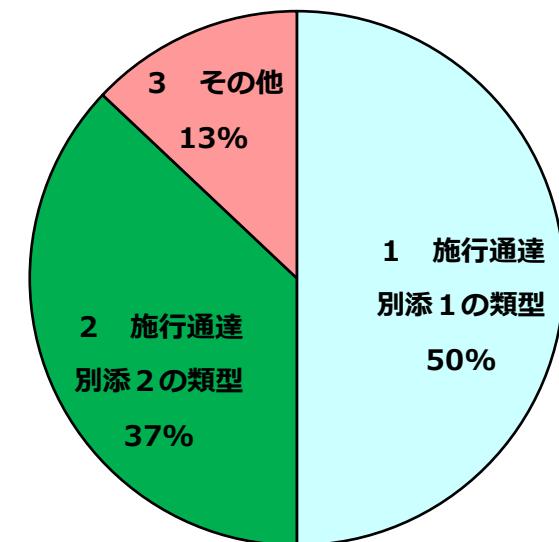
労働基準監督署の調査（労働安全衛生規則第612条の2の措置手順作成）

※労働安全衛生規則第612条の2は、熱中症の重篤化防止のため、①報告体制整備、②報告体制周知、③措置手順作成、④措置手順周知の措置を義務づけているものであり、うち③の遵守状況

労働安全衛生規則第612条の2 措置手順作成遵守状況



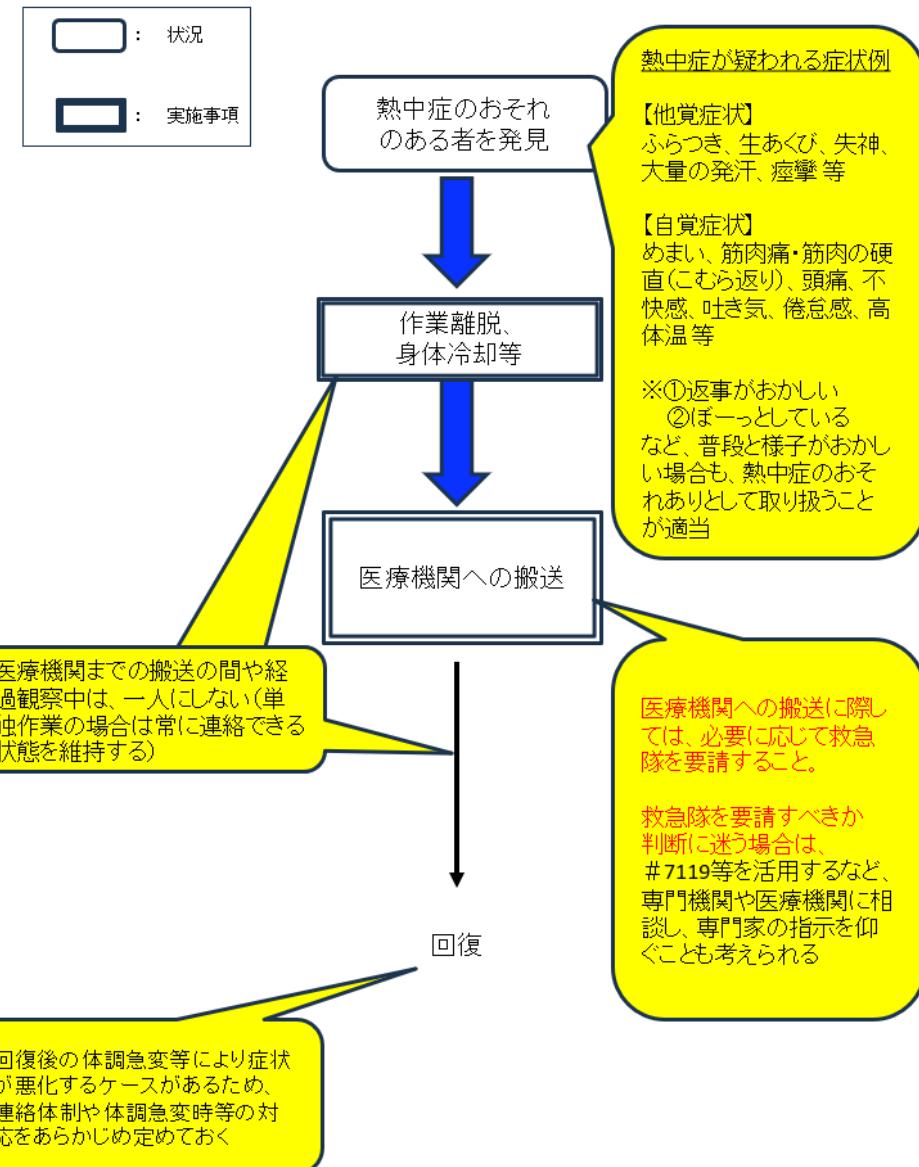
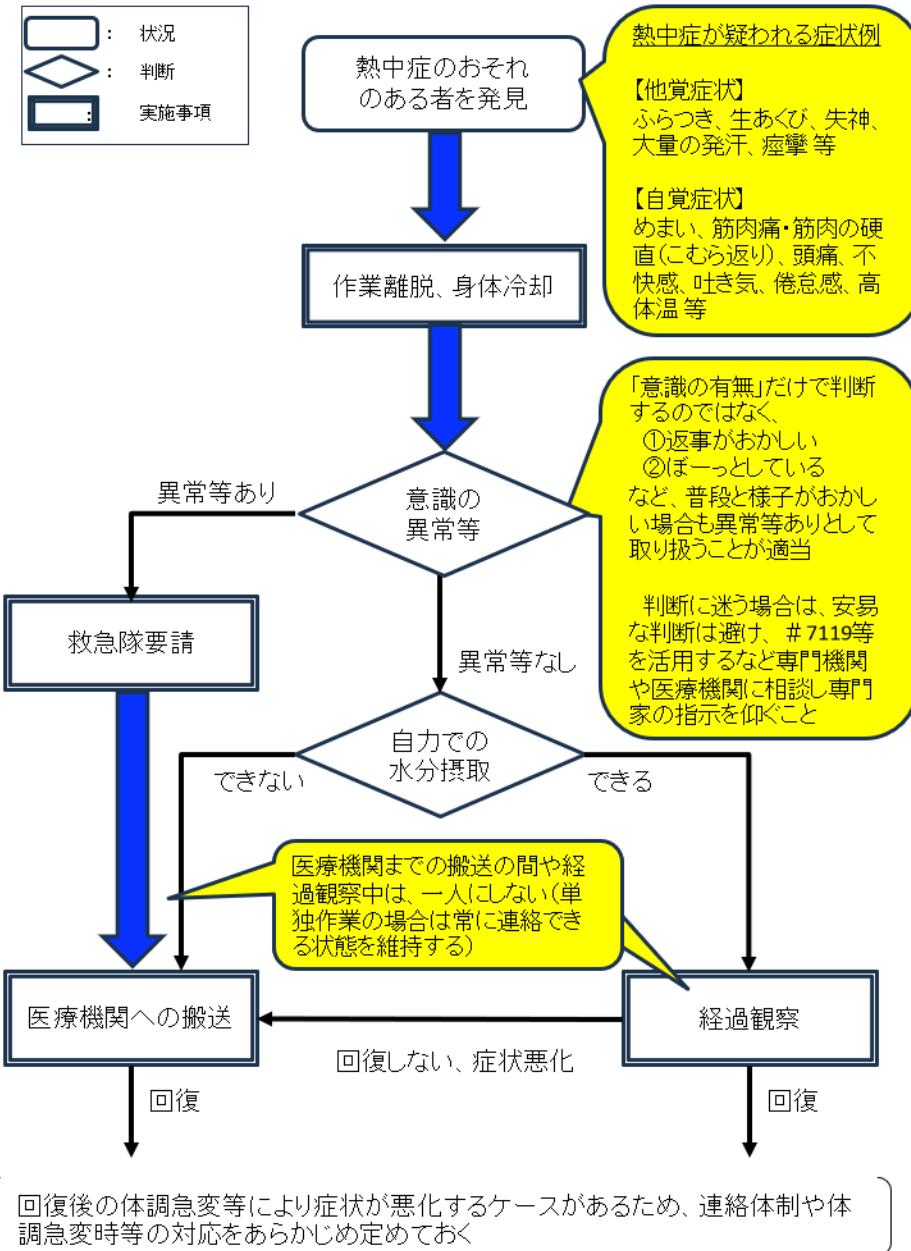
定めた手順の型 (n=54)



※1 調査等の結果、措置手順を把握したものから集計

※2 施行通達別添1及び別添2の類型については次ページ参照

施行通達別添1の類型（左）及び別添2の類型（右）



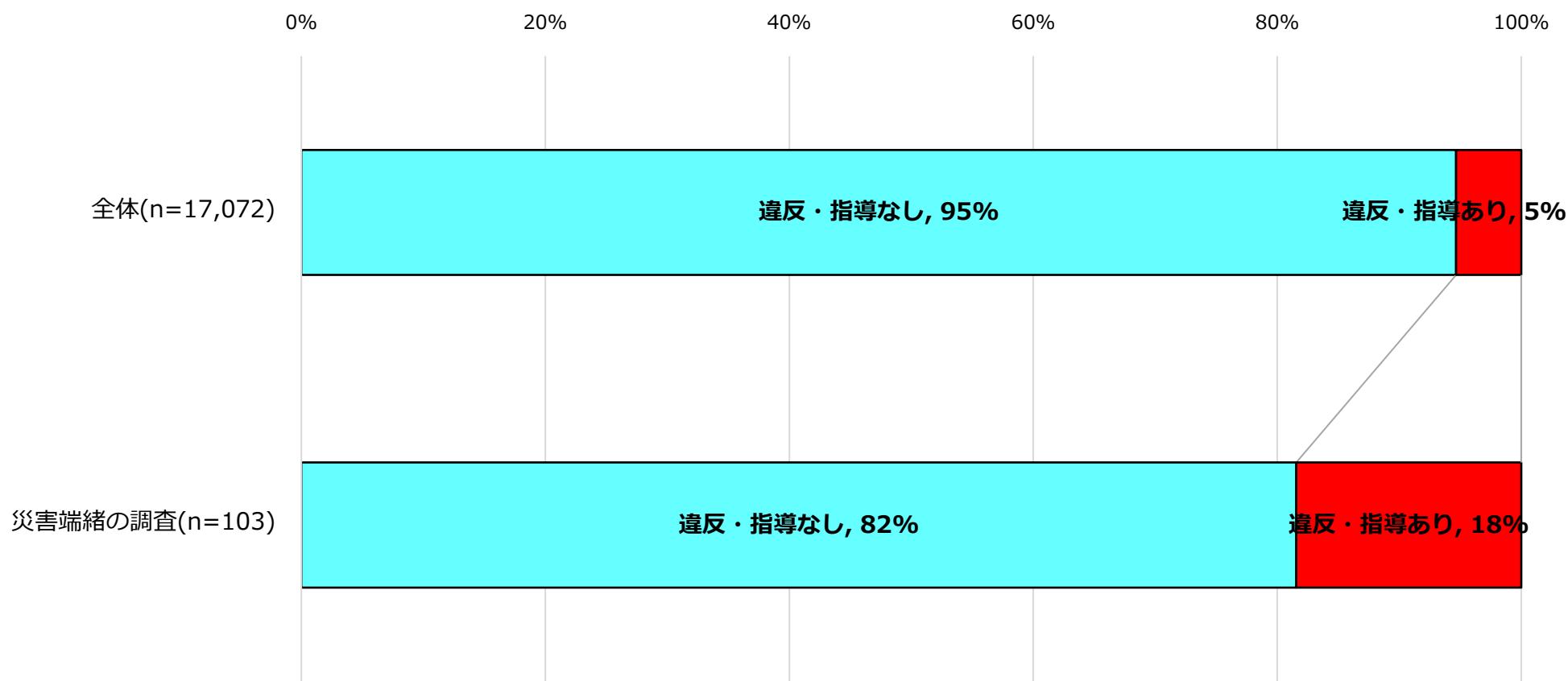
回復後の体調急変等により症状が悪化するケースがあるため、連絡体制や体調急変時等の対応をあらかじめ定めておく

労働基準監督署の調査（労働安全衛生規則第612条の2の措置手順周知）

※労働安全衛生規則第612条の2は、熱中症の重篤化防止のため、①報告体制整備、②報告体制周知、③措置手順作成、④措置手順周知の措置を義務づけているものであり、うち④の遵守状況

労働安全衛生規則第612条の2

措置手順周知遵守状況



手順通りの措置実施状況 (n=40)

手順通りに対応できなかった

10%

手順通りに対応

90%

※手順通りに措置を実施したか把握できたものを集計したもの

手順通りに対応できなかった内訳としては、

- ・被災者本人又は出先の者が救急車を呼んだものが2件
- ・手順を定めていたが措置を講じなかつたものが1件
- ・その他特殊な例が1件（被災者本人が搬送拒否）

建設業者に対する任意アンケート結果

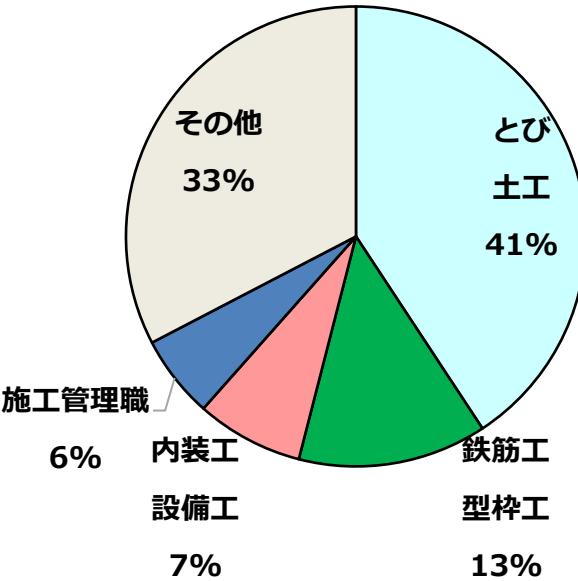
当該アンケートの主旨

令和7年6～9月において、不休災害も含めた熱中症による労働災害が発生した建設業の各事業場における熱中症予防対策の取組状況について、実態把握のため、アンケートを実施したもの（延べ1,100件）。

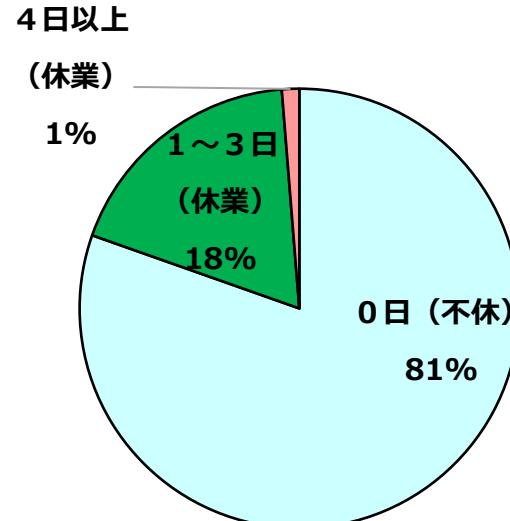
アンケート項目

- ・被災者の職種
- ・被災日時の気温
- ・重篤化防止措置手順
- ・身体冷却機能のある服の種類
- ・身体冷却のための休憩取得有無
- ・被災者の年代
- ・整備した報告体制
- ・発見後の応急処置
- ・被災者の災害発生当日の体調
- ・休憩設備内の気温
- ・被災者の休業見込日数
- ・熱中症発症者の発見方法
- ・被災者の装備
- ・身体冷却可能な休憩設備の有無
- ・休憩設備内の備品

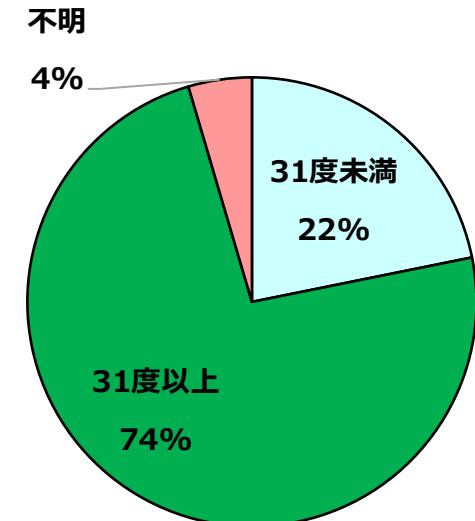
被災者の職種(n=1,100)



被災者の休業見込み日数 (n=1,097)

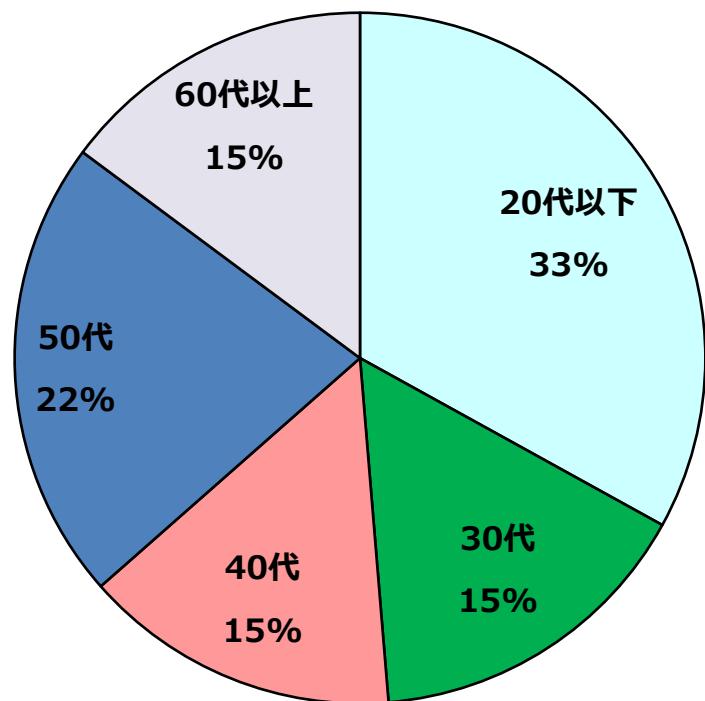


被災日時の気温 (n=1,095)

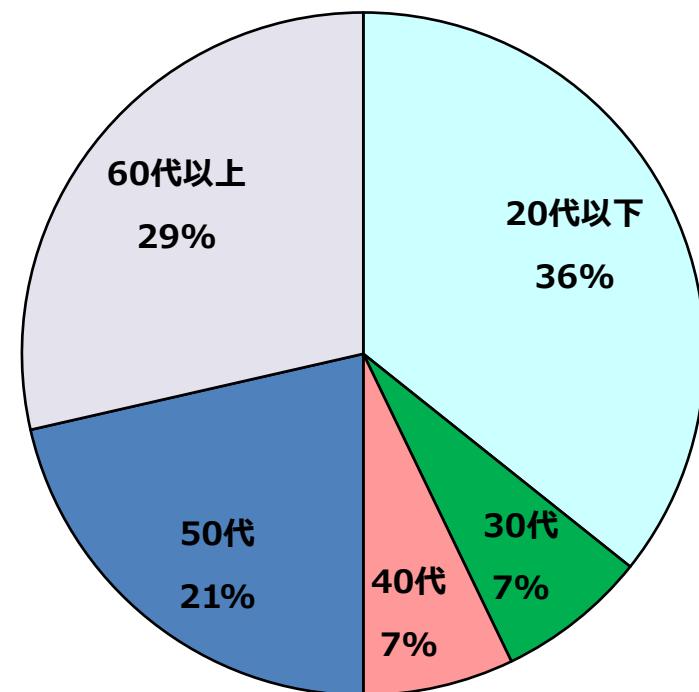


建設業者に対する任意アンケート結果（被災者の年代）

被災者の年代（不休含む全て）（n=1,099）

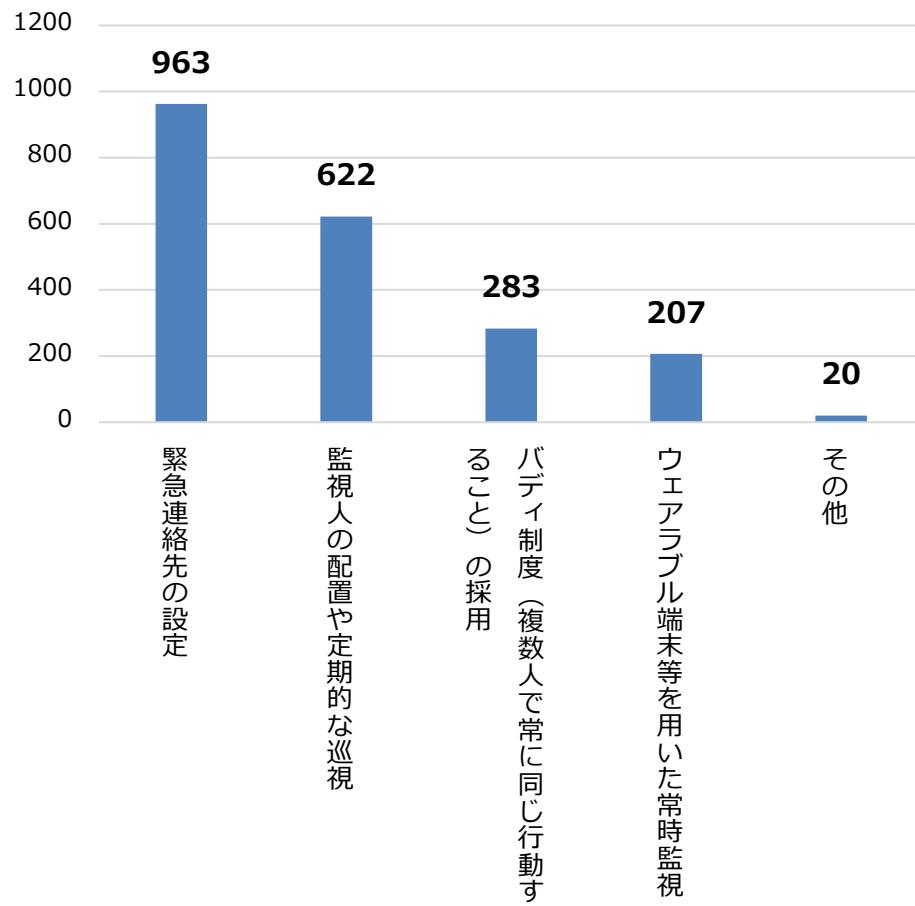


被災者の年代（休業 4 日以上）（n=14）

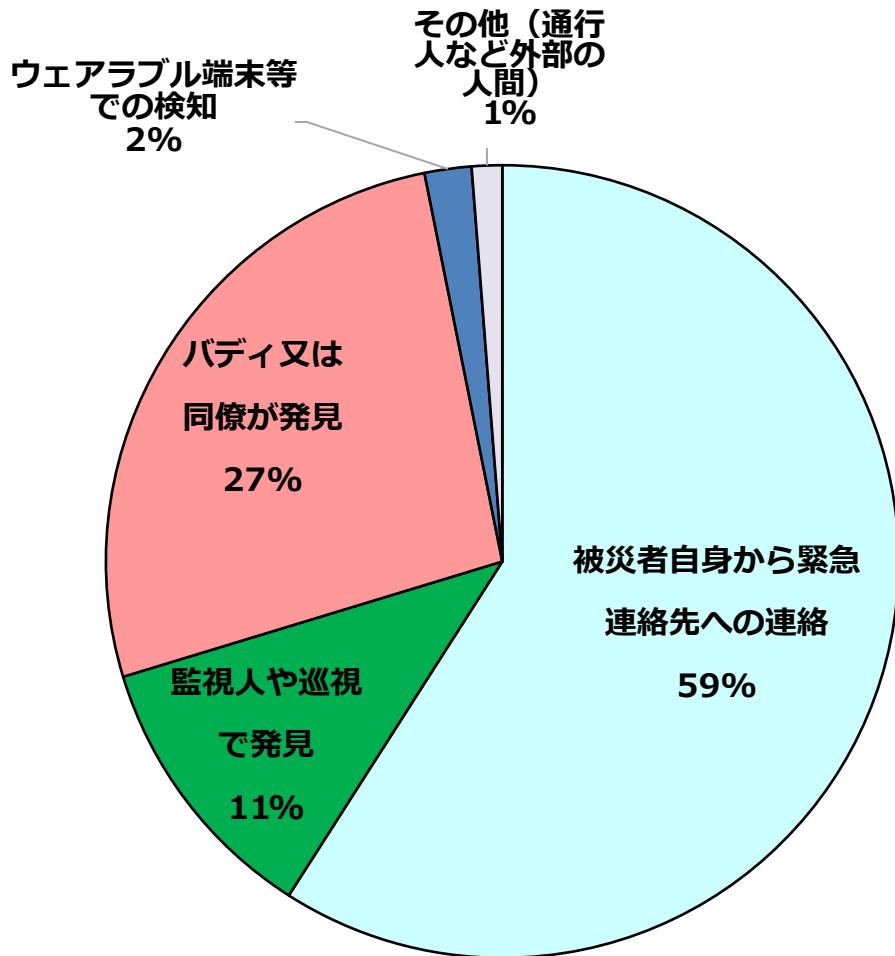


建設業者に対する任意アンケート結果（熱中症発症者の発見方法）

整備した報告体制（n=1,001）※複数回答可

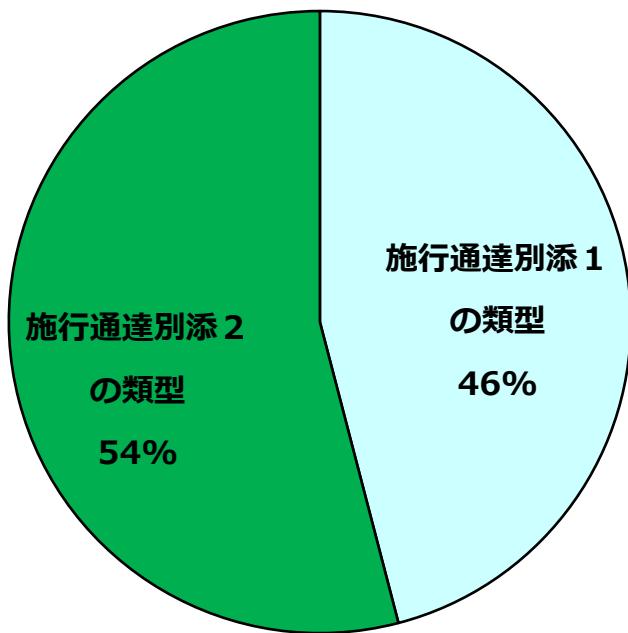


熱中症発症者の発見方法（n=889）



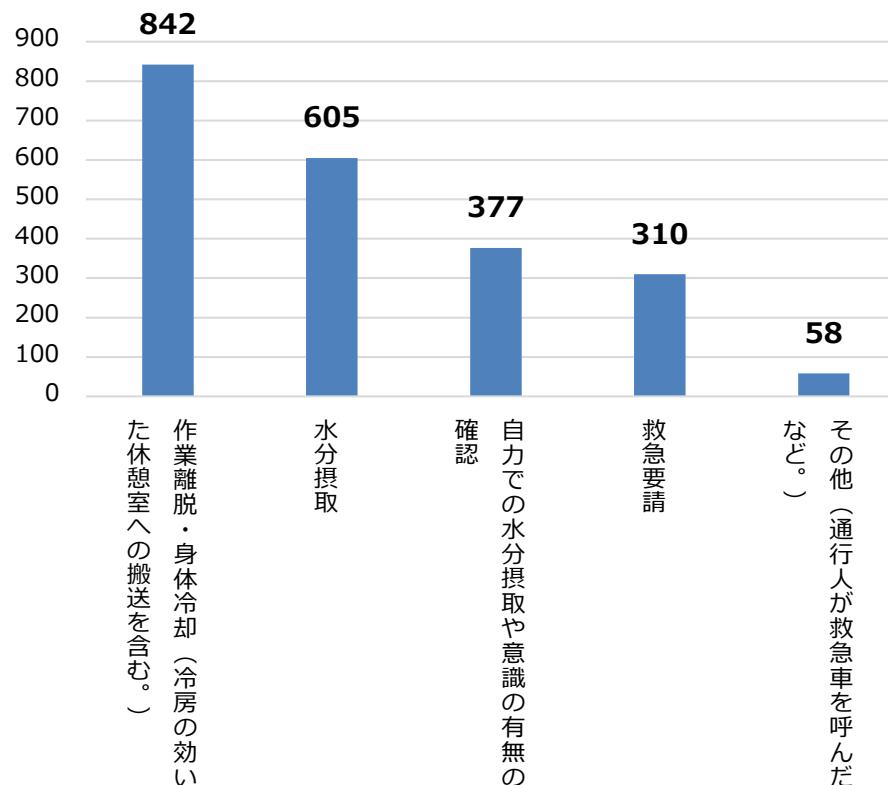
建設業者に対する任意アンケート結果（重篤化防止措置と応急措置）

定めた重篤化防止措置手順 (n=1,095)



※施行通達別添 1 及び別添 2 の類型についてはP 7 参照

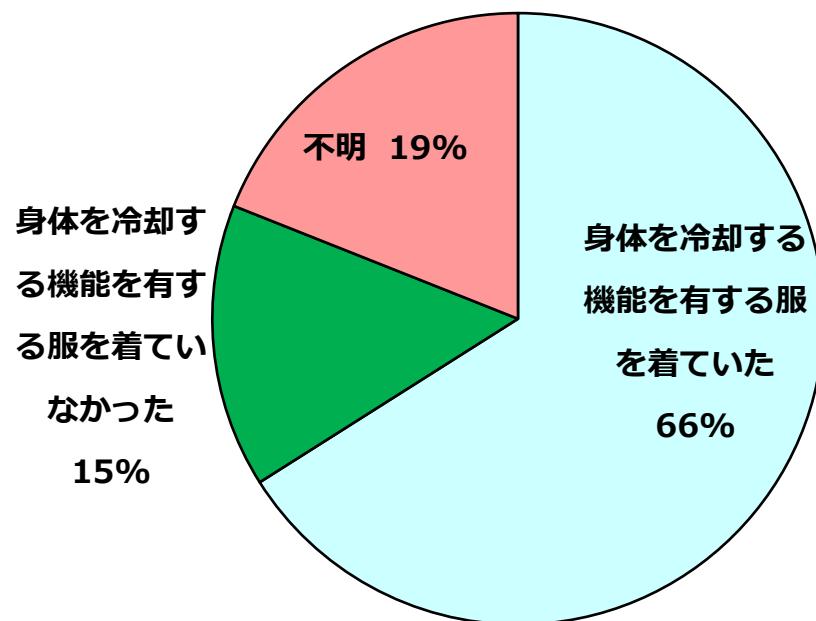
被災者発見後の処置 (n=1,013) ※複数回答可



その他（通行人が救急車を呼んだなど。）

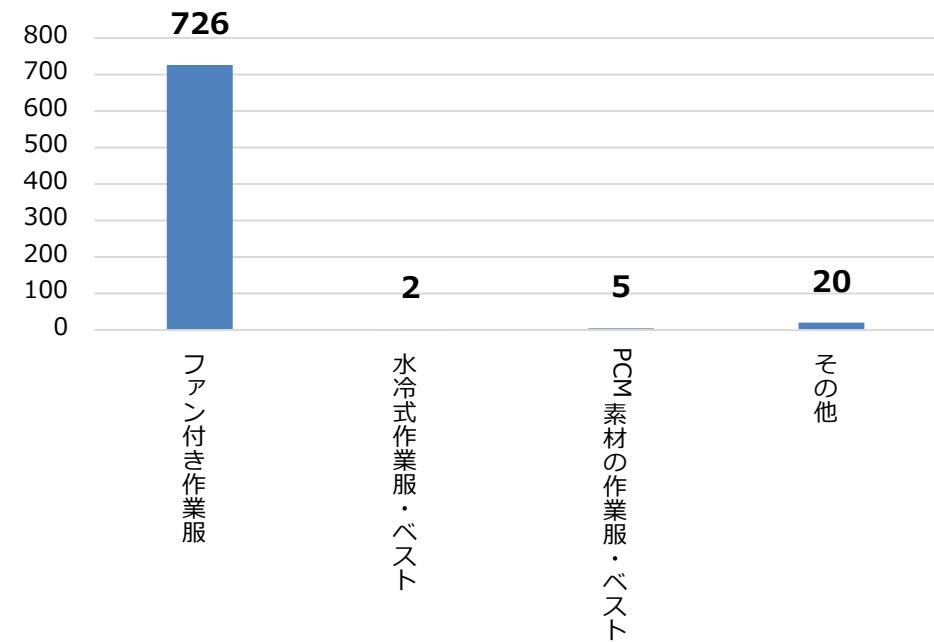
建設業者に対する任意アンケート結果（被災者の服装）

災害発生当日の被災者の装備 (n=1,080)



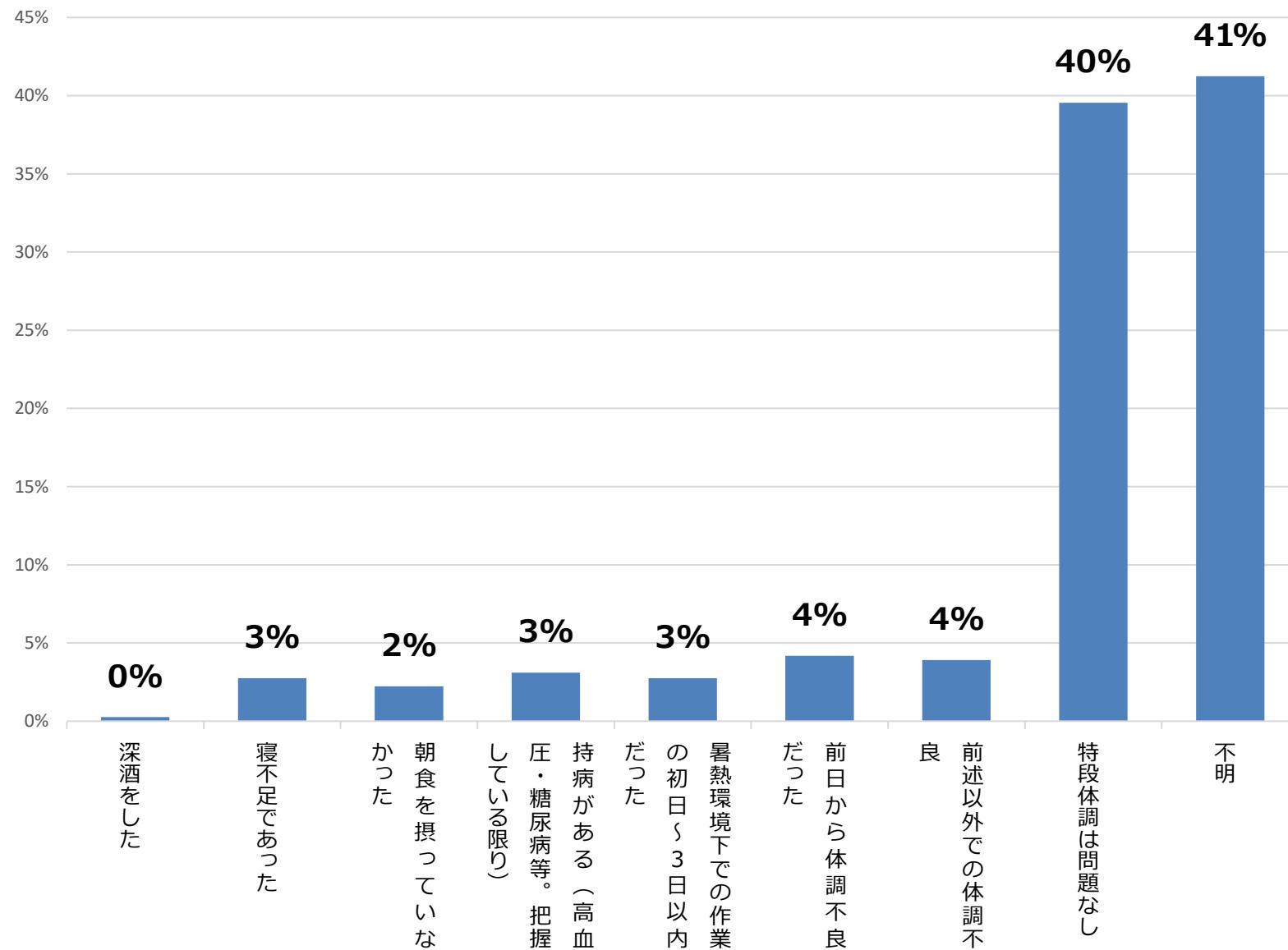
身体を冷却する機能を有する服の種類

(n=730) ※複数回答可



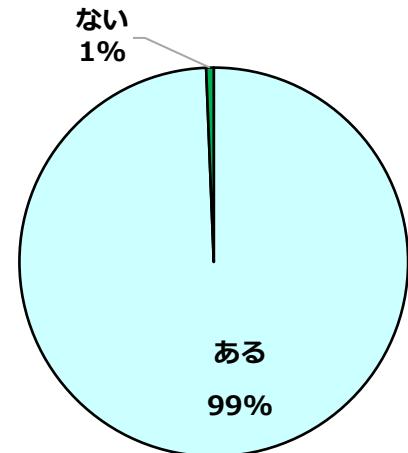
建設業者に対する任意アンケート結果（被災者の災害発生当日の体調）

被災者の災害発生当日の体調(n=1,098) ※複数回答可

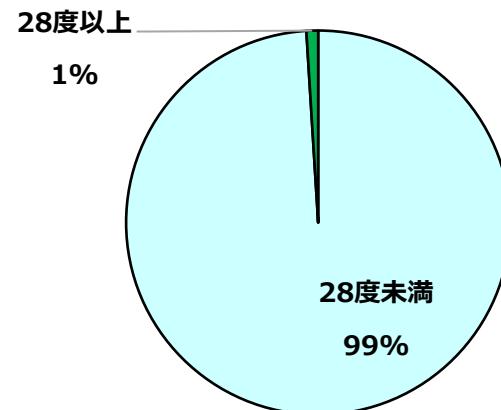


建設業者に対する任意アンケート結果（休憩設備）

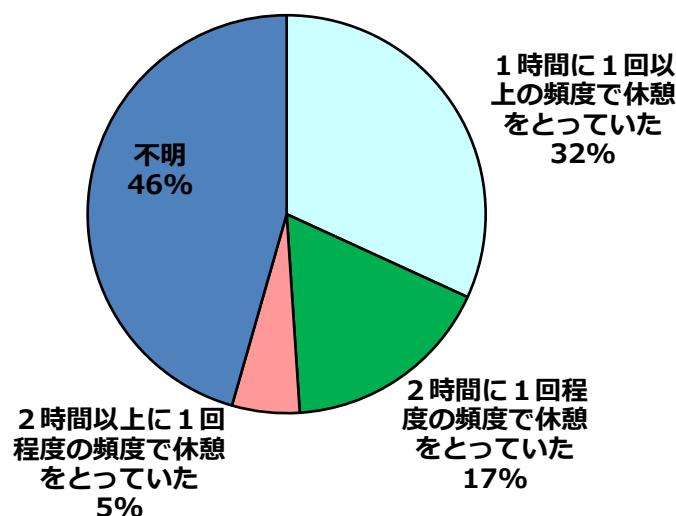
身体を冷やすことのできる休憩設備の有無 (n=960)



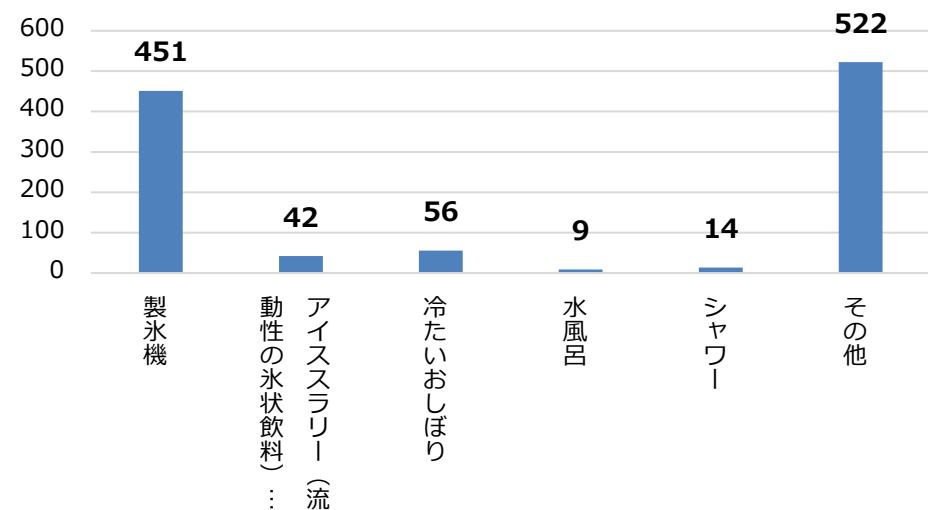
休憩設備の温度(n=916)



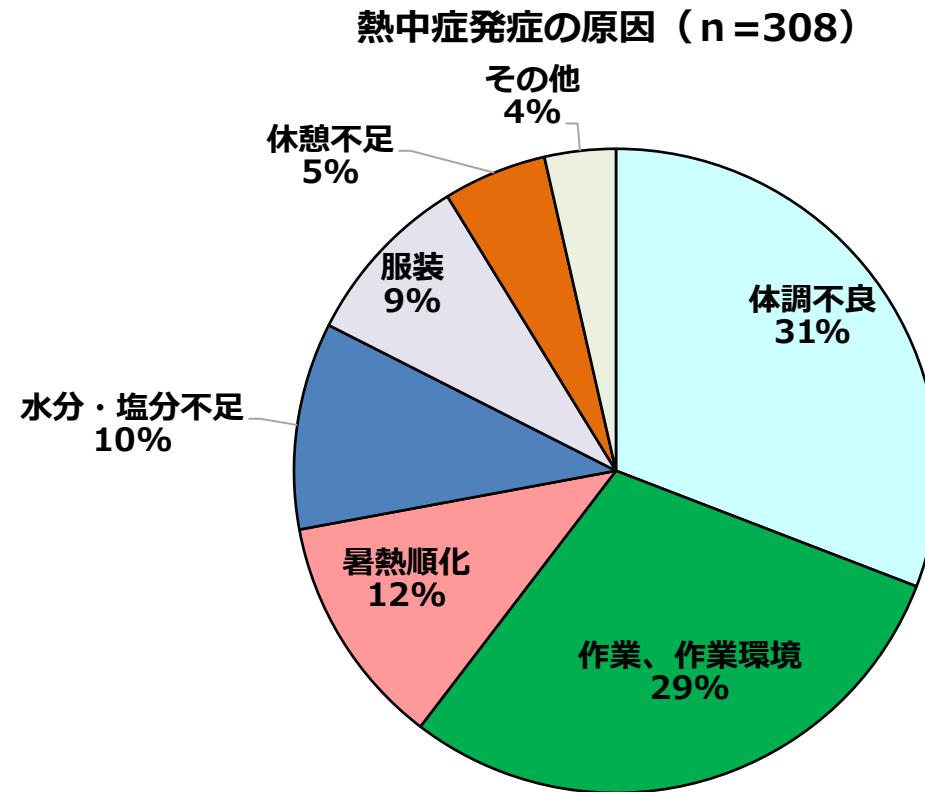
身体冷却するための休憩の頻度(n=1,093)



休憩設備備品 (n=748) ※複数回答可



建設業者に対する任意アンケート結果（熱中症発症の原因）



※ アンケートの「熱中症の原因と考えるものは何か」という自由記載欄から、厚生労働省で大別したもの。

『体調不良』は「疲労が抜けていない」又は「既往歴がある」旨の記載を含む。

『作業、作業環境』は「作業場所が著しく暑熱であった」旨の記載を含む。

『暑熱順化』は「慣れない作業であった」旨の記載を含む。

『服装』は「ファン付き作業服を着ていなかった／有効に機能しなかった」旨の記載を含む。